

令和6年度 京都大原学院 前期学校評価（中間報告）

学校教育目標

「大原のゆとりある心を自信をもって伝えられる子に！」

◎前期学校評価を実施し、学力分析テストの結果や、体力テストのデータなどを総合し、以下の（1）～（5）の項目ごとに学校評価（中間報告）としてまとめました。10月開催の学校運営協議会での協議内容も反映しています。

（1）「確かな学力」の育成に向けて

【分析】

今年も、多くの学年の各種学力テストの結果では、平均値として全市平均を上回り、学習の定着が伺えます。全国学力学習状況調査の結果も大変健闘しています。小中一貫教育校の取り組みの成果が学習にもしっかりと表れていることを感じます。引き続き、英語教育についても深化させていきたいと思います。一部で結果が振るわないことがありました。学校評価のアンケートでは、9割以上の学院生が、授業内容の理解の面でおおむね満足しながら学習を進めているという回答をしています。さらに指導と評価の精度を高めて、フォローワーク体制を整備していきたいと思います。また、「ICT 活用」についての質問項目では、8割以上の学院生が使えるようになってきたと手ごたえを感じていることも分かりました。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

基本的には現在の学習のスタイルを維持しながら進めます。テストの形式になれるためのトレーニングを行います。予習シートなどの利用を工夫し、T・T 授業で引き続き丁寧に指導していきます。授業でも ICT を活用して、学習を進めることも多くなってきました。さらに活用を進めていきたいと思います。

【学校運営協議会より】

9年生の学力が向上していることから、京都大原学院が大切にしてきたことが成果として表れていると感じます。

（2）「豊かな心」の育成に向けて

【分析】

学校評価アンケート項目の「自分がされていやなことは、他の人にしないようにしている」「挨拶は自分からしている」「みんなが気持ちよく生活できるためのマナーを意識している。」などでは、今年も全校の学院生 90 %以上が肯定的回答をしています。「大原の自然や環境について関心を持ち、大原の素敵さをいくつか挙げて話すことができる。」の項目でも引き続き高くなりました。「学校が楽しい」ですかとのアンケートでも、「そう思う」、「だいたいそう思う」と回答した学院生数が今年は 90 %を超えるました。日頃の関りを見ても、教職員との関係は良好だと思われます。「友達関係に満足している」の項目では 9割以上が満足しているという回答でした。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

昨年度は「学校が楽しい」に回答している児童生徒が少なく、先生への相談のしやすさが低い傾向があ

り、心配をしていましたが、今年の回答ではよい雰囲気で学校生活を送ることができていることが伺えました。引き続き、定期的な教育相談など、意識的に担任と1対1の場面も活用して、対話を行っていきたいと思います。「大原への関心」も特に数値が高いので、大切に取り組みを進めていきたいと思います。

【学校運営協議会より】

子どもたちが安心して学校生活を送ることが第一だと思います。教育相談の取り組みは素晴らしいと思います。普段はなかなか相談などできにくい学院生も、定期的にその機会がもたれれば、先生に気軽に相談できるのではないかと思いました。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

【分析】

全国学調の生徒質問紙の回答では、「毎朝朝食を食べている。」や寝起きの習慣など90%を超えてよい数値の回答でした。「決まった時間に寝る・起きる」項目でも100%の肯定的回答でした。体力テストの結果から、1~6年生では、京都市全体として、男女とも、令和5年度よりは低下傾向にあります。後期課程の生徒は昨年度より上昇傾向にあるようです。京都市平均と比較して、長座体前屈が数ポイント低い学年や、男女ともに立ち幅跳びや反復横跳びなど全国・京都の数値よりも下回っている学年もありました。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

全体的な運動能力の向上を図っていきたいと思います。前期課程では、全身を使ってする遊び、ドッジボールや両手投げドッジボールなどを提案し、教員と一緒に遊ぶ機会をつくりています。マラソン大会に向けての活動で全身運動能力の向上につなげていきたいと思います。ベースボール型のスポーツを体育の授業で行い、ボール投げや、短距離走などの能力向上を目指します。その他、バスケットボールなど日頃からできる、いろいろな遊びを取り入れていきます。学習で使用する道具の説明を丁寧に行い、ケガの予防に努めます。

【学校運営協議会より】

地域も協力して、体力向上の取り組みを進めていきたいと思います。

(4) 学校独自の取組

【分析】

学校評価アンケートの「『やってみたいこと』『なりたいもの』などがいくつか頭に浮かぶ。」では学院生の約7割が思い浮かぶに回答していました。「学校の学習が将来、社会に出たとき役に立つと思っている」では全体で8割の学院生が「そう思う」・「だいたいそう思う」と回答しています。

【分析を踏まえた取り組みの改善】

「大人になる科」の取り組みの成果が表れていると考えます。上記の数値も昨年度の同時期の回答と同様、肯定的な回答が多くなっています。取り組みについても、スタイルは大きくは変えず、しっかりと引き継ぎ、深化を図ることができないと考えます。取り組みを通じて、学院生が大原内外の、地域・仕事・文化について考えを深める活動を進めていきたいと思います。一つ一つの活動について効果を振り返り、精選や取り組みの改善につなげたいと思います。

【学校運営協議会より】

学校の取り組みに楽しんで参加することができています。機会を作っていただき、感謝します。

（5）教職員の働き方改革について

【分析】

学校評価教職員のアンケートでは、「職場では同僚に相談しやすい雰囲気がある。」「職場には働きやすさを感じている。」の項目で肯定的な回答が94%でした。先月の時間外勤務時間は80時間以上が0人、70～80時間未満が管理職1人、60～70時間未満が1人、45～60時間未満3名となりました。昨年度の時間外勤務時間と比較すると、今年も同時期の時間外勤務超過人数は若干少なくなっています。昨年度より、退勤時間を30分早めた成果であると考えますが、早めた割には改革が進んでいるとは言い難いのが現状です。まだまだ教員の時間外勤務に支えられ、一部の教員の負担が増えているので、役割分担や引継など、さらに取り組みを進めていきたいと思います。

【分析を踏まえた取組の改善】

学校閉鎖時間を19時、特定日には18時と徹底することで、さらに時間外勤務の縮減を目指します。業務の担当割の見直し、役割分担を進め、交代で休みをとるなど、早めに退勤する文化を作っていくたい。

【学校運営協議会より】

教職員のみなさんの健康が守られるように祈っています。